26 活用しない付属語

●助詞

助詞とは？ いろいろな語句に付き、さまざまな意味を付け加える単語。活用しない。

格助詞

- 主に体言に付き、体言とその下の語句との関係を示す。

主語を示す	が・の	例 風が吹く。
連体修飾語を示す	の	例 これは僕の宝物だ。
連用修飾語を示す	を・に・へ・で・と から・より	例 公園へ行く。 明日から冬休みだ。
並立の関係を示す	と・や・の	例 曇りや雨の日が続く。
体言の代用	の	例 その本は父のだ。

「の」の意味の見分け方

- 主語 「が」に言い換えられる。 例 僕の書いた作文。
- 連体修飾語 「体言＋の＋体言」の形になっている。 例 入学式の写真。
- 体言の代用 「こと・……のもの」に言い換えられる。 例 泳ぐのが好きだ。
- 並立の関係 「……の……の」の形になっている。 例 好きだの嫌いだのと文句を言う。

接続助詞

- 主に活用する語句に付き、いろいろな関係で前後をつなぐ。

仮定の順接	ば・と	並立 し・て(で)・たり(だり)・が・ば・けれど(けれども)
確定の順接	から・ので・ば・と・て(で)	前置き が・けれど(けれども)
仮定の逆接	ても(でも)・と	同時 ながら・つつ
確定の逆接	が・のに・ても(でも)・けれど(けれども)・ものの・ながら・て(で)	補助の関係 て(で)
		動作の推移 て(で)

例
- 走ったので、疲れた。(確定の順接)
- 雨が降っても、行くよ。(仮定の逆接)
- 食べたり飲んだりする。(並立)
- 走りながら水を飲む。(同時)

副助詞

- いろいろな語句に付いて、ある意味を付け加える。

は	区別 題目 強調	でも	類推 例示		
も	同類 並立 強調	だけ	限定 程度		
こそ	強調	しか	限定(否定と呼応)		
さえ	類推 限定 添加	ばかり	程度 限定 動作の直後		
まで	類推 到達点 限度	ほど	程度		

例
- 子供でもわかることだ。(類推)
- 今度こそ勝つぞ。(強調)
- サラダばかり食べている。(限定)
- 一時間ほど昼寝した。(程度)

終助詞

- 文や文節の終わりに付いて、話し手や書き手の気持ちや態度を表す。

か	疑問・質問 反語 勧誘 感動	ぞ	強調
な	感動 禁止 命令	よ	感動 念押し 呼びかけ
ね	感動 念押し	の	疑問・質問 主張
		とも	強調

例
- これは何ですか。(疑問・質問)
- 廊下を走るな。(禁止)

確認問題

1 助詞 次の文から助詞を全て抜き出しなさい。

- 今日まで必死に努力してきたけれど、やっとその成果が現れたよ。

ポイント まず文節・単語に分けてどれが付属語かを確認し、そのうち活用しないものを助詞と判断するのが確実な方法。活用語尾と助詞を勘違いしないよう注意する。

2 助詞　**次の――線の助詞の意味・用法を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。**

① 今こそこの計画を実行するべきだ。
② 風邪で食欲がなかったので、夕食はおかゆだけにした。
③ 暇だったら、テレビでも見て待っていてください。
④ 雪が降ってきたけれど、外でサッカーを続けた。
⑤ 目的のお店を探して、行ったり来たりする。
⑥ 「自分勝手なことをするな。」としかられる。
⑦ 偶然知ってしまった秘密を、親友にさえ話せない。
⑧ 美術館に行くには、どのバスに乗ればいいですか。
⑨ あなたさえよければ、一緒（いっしょ）に行きませんか。
⑩ 家から駅まで、歩いて十五分くらいかかる。

ア 仮定の順接　イ 確定の逆接　ウ 並立　エ 類推
オ 程度　カ 限定　キ 例示　ク 強調
ケ 禁止
コ 疑問・質問

① [　　]　② [　　]　③ [　　]　④ [　　]　⑤ [　　]
⑥ [　　]　⑦ [　　]　⑧ [　　]　⑨ [　　]　⑩ [　　]

ポイント　ウ「並立」は対等の関係で並ぶこと。エ「類推」は極端な例から一般的なものを推し量らせること。キ「例示」ははっきりと言わずに例として示すこと。

3 助詞　**次の――線の助詞と同じ意味・用法のものを、それぞれ後から一つずつ選び、記号で答えなさい。**

① 父の運転する車で買い物に行った。
ア ボールペンで記入する。
イ 病気で一週間も学校を休んだ。
ウ 駅前で候補者が演説をしていた。
エ 本を読んで感想文を書く。
[　　]

② 窓を開けると気持ちのよい風が入ってきた。
ア 母の日に、弟と一緒に夕食を作った。
イ 少し遅れるとメールで伝える。
ウ 目が覚めるともう八時になっていた。
エ 昔とは子育ての環境が違う。
[　　]

ポイント　①…「で」には格助詞と接続助詞がある。格助詞「で」には、いろいろな意味があり、①は「車を用いて」という意味。
②…「と」には格助詞と接続助詞がある。②は「窓を開けた。すると」という意味。

4 助詞　**次の文の――線「の」と同じ意味・用法のものを後から一つ選び、記号で答えなさい。**　〈富山〉

▪人間をはじめすべての動物は、呼吸で大気中の酸素（O_2）を取り入れて生きています。

ア その人は有名だ。　イ 両親の育てた花だ。
ウ 学ぶのは大切だ。　エ 北国の厳しい冬だ。
[　　]

ポイント　「すべての」は、後の体言「動物」を修飾している。選択肢の中から、同じように連体修飾語を示しているものを選ぶ。

5 助詞　**次の文の――線「ながら」と同じ意味・用法のものを後から一つ選び、記号で答えなさい。**　〈新潟〉

▪汗をかきながら歩いていると、遠くの山の辺りに入道雲が見えた。

ア 気を付けていながら失敗した。
イ 歌を口ずさみながら散歩した。
ウ ささやかながら送別会を開いた。
エ 狭いながらも住み心地がよかった。
[　　]

ポイント　接続助詞「ながら」には、主に「確定の逆接」と、「同時」という二つの意味・用法がある。「かきながら」は、〝汗をかく〟と〝歩く〟という動作が同時に行われているという意味を表している。